

文化祭を通じて、豊山の文化を見つめ直し、次世代に引き継いでいく意識の醸成を図るため、本町でも十一月十二日、文化協会との共催により、文化芸能フェスティバルを開催してまいります。

目標 7 住民と行政がともに考え、 ともにつくる信頼のまち

「目標 7 住民と行政がともに考え、ともにつくる信頼のまち」です。

コンパクトな町域は、町民の皆様、そして町民の皆様と行政が互いに顔の見える、協働のまちづくりを進める上で、本町の大きな強みです。

町民討議会議は、幅広い年齢層の方々にまちづくりに参画していく機会として開催してきました。開始から5年が経過し、これまで延べ200人の方々に参加いただいております。「地域公共交通」、「防災問題」、「第四次総合計画後期基本計画案」などの討議を行い、その討議結果をまちづくりに活かしてまいりました。

平成二十八年度は、討議会議に参加いただいた方々を対象に、これまでの成果等を検証するシンポジウムを開催します。講演会や今後の町民討議会議

のあり方などパネリストを交えた意見交換会を実施してまいります。

まちづくりサポーターについては、「町の魅力をもっと知ってほしい」「まちで何かおもしろいことをしたい」という思いのもと、現在9名の方に活動いただいております。こうした活動は、本町への郷土愛の醸成につながるものです。引き続き、まちづくりサポーターの活動を支援してまいります。

平成二十八年度は、第四次総合計画の後期基本計画の2年目です。引き続き重点戦略を含め各施策に精力的に取り組むとともに、PDCAサイクルによる適切な管理を継続して実施してい



きます。

財政運営につきましては、中長期的な財政運営への活用を充実するため、庁舎、道路、橋梁などの公共施設の老朽化に伴う改修、更新への対応について、今後の維持管理方針を示す公共施設等総合管理計画を策定してまいります。

行政改革につきましては、平成二十七年中に策定します第五次行政改革大綱に基づき実施してまいります。これまで、四次にわたり職員数や日常的経費などの削減に取り組み、それぞれ一定の成果を挙げてきました。一方で、少子高齢化の進展、地方分権の推進などの社会構造の変化に加え、公共施設の老朽化対応、東日本大震災を教訓とした防災対策など、今後取り組むべき様々な社会変化や課題に対して的確に対応しなければなりません。このような状況の中、「人材改革」「職場改革」「行財政改革」「協働改革」の4つを改革の柱として、行政運営を行ってまいります。

結びに

秋空が晴れ渡った平成二十七年十一月十一日、町内外の多くの方々を背に、MRJの機体がこの豊山の地から飛び立ちました。

MRJの安村機長は、離陸の瞬間を「ふわっと浮き、まるで飛行機が飛びたいと言っているようだ」と話されました。それと同時に「名古屋空港に向かう際はふるさとに帰ってくるイメージだった」と初飛行時に求められたコメントで続けられています。

MRJの最終組立は、本町が世界唯一であり、まさに、本町はMRJのふるさとであり、今後国内外の多くの人々が本町を訪れるようになります。

この機会を千載一遇のチャンスとして、本町ならではの魅力、特徴にさらに磨きをかけ、防災・防犯、福祉、教育などの分野のさらなる充実につなげ、町民の皆様が暮らしやすさをより実感できるまちづくりを進めてまいります。

本町の基本理念は「小さくてキラリと輝くまちづくり」です。

町民の皆様との対話と協働によるまちづくりを今後も進め、「にぎわい」と「やすらぎ」の高い次元での実現によりこの基本理念を体現してまいります。

今後とも、皆様のご協力とご理解をあらためてお願い申し上げます。私の平成二十八年度予算についての所信の表明を、閉じさせていただきます。